

建築学科

学科理念・教育目標

建築学科は、「室内から都市全体の環境に至るまでを、快適な人間生活のための空間として総合的に計画し造形し得る人材を育てる」建築デザイン教育を基本理念とし、1964年に産業デザイン学科 建築デザイン専攻として発足、翌1965年に学科として設立されました。価値ある生活環境の創出を目指し、幅広い教養、工学的知識と造形能力を身につけた建築家・デザイナーを育てることを目標としています。

- 建築学科では教育において、以下の視点を重視しています。
- 建築には、人間の活動を支え、居場所となる良質な環境をつくる役割があります。室内から住宅、各種の建築、都市、地域、地球環境まで、人間の関わる空間すべてが学びの対象です。課程も自然科学、人文科学、社会科学、芸術学の領域に広がります。
 - 建築は、常に社会の仕組みと不可分の存在であり、建築行為はこの社会の仕組みに働きかけ、新たな社会の創造に関わります。建築を価値の表象としてとらえ、歴史的考察や現状把握のための分析能力を養います。
 - 建築は、常にそれが立地する場所に関わります。空間を構成する造形能力を習得するだけでなく、人間の生活の基盤である場所や地域と建築との有機的で豊かな関係の構築を考察します。
- こうした内容を具体的な空間の設計として集約し、総合化する演習を最も重視しています。学部での4年間を通じて、全員が必修科目として学ぶ「設計計画」は、その絶えざる探求にほかなりません。

カリキュラム構成	全体	建築学科では、一年次から四年次まで開設される「設計計画」をカリキュラムの中心としています。1～2年次は全員が共通の課題に取り組む基礎課程、3年次以降はテーマ、ジャンルに分かれた専門課程（スタジオ）に大別されます。 いずれも、用途や条件に応じた空間構成の計画・設計に加え、構想と現実を結びつけて建築設計を理解する原寸制作や、コミュニケーションを鍛える共同制作、実社会との関係の中で設計する地域連携の課題を組み込んでいます。 講義科目は、学生が自身の設計を通じて講義に実感を持ち、設計に方法的、技術的裏付けを得るために、上述の演習「設計計画」と連動するカリキュラムとしています。計画・意匠系と技術系（構造・環境工学）に大別されますが、美術大学の建築学科であるため前者の充実が大きな特徴です。建築形態論、建築意匠、建築デザイン論など建築造形理論に関する科目、環境計画、庭園史、ランドスケープ概論、都市デザインなど環境デザインに関する科目、造形表現を広げる基礎造形、造形演習、写真表現の科目などを開設しています。 一級建築士をはじめとする建築士受験に必要な指定科目が開設され、必要な科目および単位数を履修することで受験資格を得られます。 全学的なカリキュラムについていえば、芸術に関する文化総合科目が多数開設され、絵画、彫塑、デザインの実習科目が必修科目であることが、美術大学らしい大きな特色となっています。
	1年次	設計・デザインの基礎を学びます。名作のトレースや小建築の設計を通して図面（CADと手書き）と模型表現を習得し、同時に、前者では建築の構想から設計にいたる方法を時代背景とともに研究します。また、大学キャンパスを実測して建築のスケール感を把握し、構造・工法・空間の構成・環境の読み取り・身体感覚などを習得します。
	2年次	設計・デザインの基礎課程として、住宅から小規模な各種の建築、さらに複合用途の建築の設計を学びます。私的空間から公的空間へ、単機能から複合機能へ、より規模の大きな建築へという流れがあります。これらの課題を通して、地域の固有な生活文化・住環境の読解、木造建築の架構技法、建物利用者の諸活動を分析し再編成する提案を含めた設計方法などを学びます。

3 年次	専門課程として異なるジャンル、テーマを立てるスタジオに分かれ、少人数でより高度な視点から設計・デザインを学びます。 ジャンルとしては建築デザイン、ランドスケープデザイン、都市まちづくり、建築と美術に大別され、各ジャンルの今日的な課題に取り組みます。自らが問いを立て、その問いに対して想像力や感性を働かせると同時に論理性も併せ持ってデザインすることが重視されます。この問いがしばしば卒業制作・研究に発展していきます。
4 年次	前期は「設計計画」を履修し、後期は卒業制作・研究に取り組みます。「設計計画」は、卒業制作・研究に連なるより多様で深化した課題となります。卒業制作・研究においては、4 年次開始時に指導担当教員を決め、少人数制でゼミを重ねながら、制作・研究テーマを学生が能動的に決定していきます。前期に研究をまとめ、後期に卒業制作あるいは研究（論文）に展開します。

歴史

建築学科は造形学部の一学科として 1965 年に開設された。

もともと、本校造形学部は、美術学科と産業デザイン学科の 2 学科をもって 1962 年に出発し、産業デザイン学科に建築デザイン専攻が 1964 年に開設され、その翌年、建築学科として造形学部の第 3 番目の学科として独立した、という経緯である。

創設当初の主旨は、工学の分野にある日本の建築学の枠を超えて、美術大学でなければならない“自立した芸術としての建築”を追求することにあった。環境デザインは、開設当初から建築の基軸と位置づけ、建築環境学から都市の景観形成まで、群として建築の美をめざすものであり、現在も発展的にその基本は変わらない。

それは、エンジニアである前に、アーキテクト（建築家）としての社会的な責務をその職業意識に組み込もうとする、わが国では当時としても、今に至るまではなほだユニークな試みであった。本校建築学科卒業生は、いわゆる建築家の一般的な業務を超えた多分野で活躍している。

創設当時のこの理念は、時代に先駆けて実践されてきたこともあり、すでに 50 年、今も学科の基本的な教育方針として受け継がれている。

こうした学科を支えるスタッフは、すべての教授陣に実践的に設計活動を継続している建築家を配すると同時に、そのひとりひとりの専任スタッフが独自の研究領域や設計理論、あるいは方法論を有し、多彩多様であるように選ばれている（建築設計、環境学、構法史、歴史文化など）。そしてさらに専任スタッフを取り巻く 50 人を超える講師陣が、多彩なカリキュラムを支えている。

学科開設の準備期から参加された芦原義信（初代主任・建築家）は、芦原理論としての「外部空間論」を、武蔵野美術大学鷹の台キャンパス（サイトプランニングと大多数の校舎）のデザインで実践した。開放的で自由な校風とよく似合うところが、多くの学生に愛されてきたキャンパスである。

教育目標

教育目標は、自立した建築家を育てることである。そして、真の建築家とは、すべての環境課題への責任を担う力量を求められる存在である。

そのためにも、さしせまった課題に対しても、根底の意味を見失うことのない創造性を重視した教育環境を、研究室と学生の間で維持できるように心がけている。専門教育は、一方的に与える関係ではなく、受ける側とともに創造的に積み上げていく関係にあると考える。建築家の役割は、都市であれ、山村であれ、環境形成作用としてのデザイン行為を通じて、創造性を社会化することにある。表現力はもちろんのこと、建築を通じて行われる社会との多角的なかかわり（一例を挙げるならば、街づくりなどの実践的行為におけるプロセス進行の役割など）においてもまた、その創造性は重要な意味を持っている。

本建築学科がめざす最大の目標は、この創造性がいかに重要であるかを課題やコンペへの挑戦などにおける共同作業や個人学習のさまざまな機会を得て、学生自らが体得できるように、“学びの環境”を元気にすることである。

学生諸君が、それぞれの資質と照らし合わせ、仲間を得て、自分の個性のうちに自己研鑽を重ねることができるように心がけ、カリキュラムも工夫している。

建築における創造性は、“思考力”と“技術”という二つの極の上に築かれるものである。したがって、より豊かな創造力を培うためには、この二つの極をそれぞれに磨かなければならない。この二つの極が、究極において、“何をつくるか”と、“どうつくるか”の内容と形式を決定するといえるだろう。

このうち、思考力（ideation）は、意味あるコンセプトを導き、豊かなイマジネーションを生み出す力である。思考力を培うには、豊富な知識はもちろんだが、同時に鋭い直観力と洞察力が不可欠である。建築家はその思考のプロセスにおいて、常に社会を厳しく観察し続け、批評する洞察力をもち続けなければならない。なぜなら、観察と批評の段階から、実はすでに建築における創造的な表現が開始するからだ。

一方、建築における技術（technology）は、建築を実体的なものとして成立させる工学的な技術を学ぶことは当然として、なおそれにとどまるものではない。創作の手法としての表現技術、社会における建築の意味を説くと同時に社会へ働きかける建築の作用を説くための、いわばコミュニケーションの技術、さらには現在グローバルな展開がめざましい IT（インフォメーション・テクノロジー）とのかかわりも持つべき技術としての重要性を増している。こうした技術を獲得するためには、学生諸

君が積極的に実践的な学習のチャンスを得られるように、活動領域を広げる必要がある。

創造性を支えるこの二つの極をいかに自分の個性のうちにバランスさせて磨くことができるかが肝要である。社会的な意味を放射する創造性を、在学中に各人の個性として築き上げるために最大の努力を期待したい。それを支援する教育システムとカリキュラムが設計計画の課題を芯に据えて建築学科専門科目として設けられている。

専門課程

専門課程の教科は、すべて文化総合カリキュラムと重ならないように用意した。できるだけ広範囲に、美術大学の特色ある科目を文化総合で広範囲に楽しんで学び、美術とその周辺諸分野の素養を深めてほしい。

建築を学ぼうと必要のないものは何もない。建築が大いなる雑学であることを誇りに思ってもよいとさえ思う。いい加減な知識は何の役にも立たないが、それぞれに熱中して楽しみ親しんだことは、どんなことでも生きた糧である。

建築学科の教育は、一般的に建築分野と認識されている範囲に学生諸君を縛るためのものではない。機会を得て自分の道が開けたならば、素直にそれに従ってみることも大切なチャンスを開く機会ではある。しかしどのような分野へ展開していくにしても、建築学科に籍を置く間に、ここで学べることの基礎教育は各自がしっかり身に着けることを期待して用意したものである。

専門科目の芯に設計計画がある。

1, 2 年次は、設計の基本をしっかりと体得し、表現技法とともに設計手法を学ぶ。そして、3 年次以降、自己研鑽の進んだところで、自己発現、社会批判の枠を広げる機会を増やし、建築の枠を超えた創作性を高めながら表現技法も高度にする、という過程を踏む。

－ 1 年次－

1 年次は、絵画・彫刻をはじめとする美術・デザイン・図法と製図などの基礎教育である。表現の基礎と技術を 1 年次までにマスターしてほしい。なお、造形総合カリキュラムにより、他学科の学生とともに他学科開設の実習科目を選択ながらも必修科目として履修する。1 年次の建築専門科目は基礎実習と講義中心である。

－ 2 年次－

2 年次は、「設計計画」を主軸においた建築専門領域の基礎教育である。

設計課題としては、

[住む環境（土地を知り、人を知る）]－住宅と宿泊施設

[身近な都市空間（地域、公共の施設、街と広場、公園）]－たとえば美術館や公園、駅など公共スペース、あるいは、大学のキャンパスプランなど。

これらの設計課題と、「計画原論」（建築環境学）や「構造デザイン」（構造と架構）、「建築計画」などの専門課程における講義科目が連動して進行する。

設計の基本は 2 年次までで、一通り建築の基礎と設計能力の基本が身につくようにカリキュラムが考えられている。

－ 3 年次－

（2024 年度各スタジオの例）

○高橋スタジオ

第 1 課題：グラデーショナル

第 2 課題：都市の環境単位－富ヶ谷

○菊地スタジオ

課題：神宮前に作るストリートカルチャーのギャラリー、ラグジュアリーホテル

○持田スタジオ

課題：地域にとっての学びの拠点

○小松スタジオ

課題：マテリアルから空間まで

○布施スタジオ

第1課題：敷地設定型 住宅プロジェクト—住宅+αの新しい可能性を提案する—

第2課題：敷地設定型 企業ミュージアム—ミュージアムの新しい可能性を提案する—

○小西スタジオ

課題：傾斜地にたつ複合施設

○國廣スタジオ

課題：地域ネットワークを創るアートセンターとアクティビティ

○長谷川スタジオ

課題：タワー下の祝祭空間

－ 4 年次－

(2024 年度各コースの例)

○高橋スタジオ

課題：外界からアプローチする建築

○布施スタジオ

課題：「偶然と必然」の建築

○小西スタジオ

課題：「エクストリーム・アーキテクチャー—Extreme Architecture—」

○菊地スタジオ

課題：「石を知り、石から建築を考える」

○持田スタジオ

課題：「微環境」をまなぶ・よむ・つくる

○國廣スタジオ

課題：消滅する市街地のリニューアルスケープ

○長谷川スタジオ

課題：アーバンリゾートとしての公園

○小松スタジオ

課題：場所からの表現—国分寺崖線—立川市～田園調布

教育課程

建築学科の教育課程は、各学科共通の文化総合科目と、造形総合科目、建築学科の学科別科目から成り立っています。

卒業に必要な単位は、この授業科目区分ごとに定められています。ただし、入学した年度(学年)によって、授業科目区分ごとの卒業所要単位数の配分、および建築学科の専門教育科目の授業科目名と単位数が異なります。入学年度(学年)ごとの一覧表にして示してありますので、自分の入学年度の授業科目名と単位構成をよく確認して、履修計画を立ててください。

なお、博物館に関する科目を履修する場合には、卒業に必要な単位との関係に十分注意しなくてはなりません。詳しくは、この『履修・学修ガイドブック』の「博物館に関する科目」の項と、別に用意されている『学芸員課程の履修について』をよく読んで履修計画を立ててください。

履修上の注意事項

- ①各授業科目区分の卒業所要最低単位を修得した上に、「自由選択枠」として、文化総合科目、造形総合科目Ⅱ類、学科別科目Ⅱ類(選択)、他大学単位互換科目の中から選択して、22単位を修得しなければなりません。また博物館に関する科目からも、12単位まではここに算入することができます。
- ②文化総合科目・造形文化に関する科目群に開設されている「図法・製図Ⅰ・Ⅱ」は、学科別科目と重複するので、履修は避けてください。
- ③文化総合科目・造形文化に関する科目群に開設されている「日本建築史Ⅰ・Ⅱ」、「西洋建築史Ⅰ・Ⅱ」、「近代建築論Ⅰ・Ⅱ」の中から4科目(8単位)を履修することが望ましい。
- ④学科別科目Ⅱ類の授業科目のうち「Ⅰ」、「Ⅱ」のついた科目は、原則としてその順にしたがって履修しなければなりません。(「Ⅰ」を修得していなければ「Ⅱ」を履修できない。)

⑤ 学科別科目Ⅱ類の授業科目は、指定された学年で履修すること。詳細は単位表を参照してください。

⑥ 「構造力学基礎」「基礎数学」の履修について

建築学科の学生には、2年次の必修科目に「構造力学Ⅰ」がありますが、この科目を理解するにはベクトル、三角関数、力の釣合、固体の変形などの理解が前提となります。そこで、高校数学、物理のこれらの単元を学んでいない、また苦手な学生は、「構造力学基礎」および「基礎数学」を必ず履修するようにしてください。

・また、この科目は、なるべく少ない人数の受講が効果的ですので、これらの単元を理解している学生は履修しないようにしてください。

⑦ 「構造力学Ⅰ」の履修について

「構造力学Ⅰ」には、「構造力学基礎」と重複する内容があります。両科目を履修する学生には、くどく感じるかもしれませんが、これは「構造力学Ⅰ」を一つの知識のまとまりとして学ぶ上で必要なことと了解してください。

建築士試験受験資格について

建築学科は、学科を卒業することによって、一級建築士試験の受験資格が得られ、2年以上の実務経験を経て免許登録ができるカリキュラムを組んでいます。学科が設定する必修科目と選択科目を次の要領で履修してください。科目名称の後の(2)、(4)は、それぞれ2単位科目、4単位科目を表しています。

二級・木造建築士試験は、必修科目を履修することで卒業後受験資格が得られます。

必修科目：建築設計基礎(2)、設計計画Ⅰ－1(2)、設計計画Ⅰ－2(2)、設計計画Ⅱ－1(2)、設計計画Ⅱ－2(2)、設計計画Ⅲ－1(2)、設計計画Ⅲ－2(2)、設計計画Ⅳ(2)、建築計画A(2)、建築計画C(2)、建築意匠A(2)、計画原論A(2)、建築設備・実験Ⅰ(2)、構造力学Ⅰ(4)、建築構法(2)、構造デザインⅠ(2)、建築材料学・実験Ⅰ(2)、建築施工Ⅰ(2)、建築法規Ⅰ(2)、建築設計表現(2)、図学(2)、都市デザインA(2)、建築意匠B(2)

選択科目：建築計画B(2)、西洋建築史Ⅰ(2)、西洋建築史Ⅱ(2)、日本建築史Ⅰ(2)、日本建築史Ⅱ(2)、近代建築論Ⅰ(2)、近代建築論Ⅱ(2)、計画原論B(2)、建築設備・実験Ⅱ(2)、構造力学Ⅱ(4)、構造力学基礎(2)、構造デザインⅡ(2)、建築材料学・実験Ⅱ(2)、建築施工Ⅱ(2)、建築法規Ⅱ(2)、都市デザインB(2)、ランドスケープデザイン概論(2)、環境計画b(2)、ランドスケープデザイン近代史(2)、庭園史(2)

○一級建築士の免許登録資格を、実務経験2年後に得たい学生は、上記必修、選択科目から合計60単位以上を履修してください。実務経験3年後に免許登録資格を得たい学生は、上記必修、選択科目から合計50単位以上を履修してください。但し、「設計計画Ⅲ・Ⅳ」については、その内容が建築設計課題とみなされない場合、所要単位に含まれませんので、履修計画に注意してください。

○不明な点は、研究室に問い合わせください。

2025 年度入学生～ 2022 年度入学生（1・2・3・4 年生）
建築学科／単位表

学 年			1		2		3		4		卒業所要 最低単位		
進級単位			16		4		4		2				
科目区分			科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位			
文化総合 科目		Ⅰ 類		履修学年指定なし								24	
		Ⅱ 類		履修学年指定なし								16	
造形総合科目	Ⅰ 類	必修	造形総合・絵画Ⅰ	2							4	6	
			造形総合・彫刻Ⅰ	2									
		選択 必修	造形総合・絵画Ⅱ	2							2		
			造形総合・彫刻Ⅱ	2									
			造形総合・デザインⅡ	2									
			造形総合・工芸Ⅱ	2									
			造形総合・メディア表現Ⅱ	2									
	Ⅱ 類	選択 必修	履修学年指定なし								2		
	Ⅱ 類	必修	設計計画Ⅰ－１	2	設計計画Ⅱ－１	2	設計計画Ⅲ－１	2	設計計画Ⅳ	2	20		
			設計計画Ⅰ－２	2	設計計画Ⅱ－２	2	設計計画Ⅲ－２	2					
			図学	2									
			建築設計基礎	2									
			建築設計表現	2									
必修		構造デザインⅠ	2	計画原論 A	2	建築意匠 A	2			28			
				建築計画 A	2	都市デザイン A	2						
				構造力学Ⅰ	4	建築施工Ⅰ	2						
				建築構法	2	建築設備・実験Ⅰ	2						
				建築材料学・実験Ⅰ	2	建築計画 C	2						
選択	構造力学基礎	2	写真表現	1					28				
	基礎数学	2											
			建築概論 A	2	建築施工Ⅱ	2	ランドスケープデザイン概論	2		0			
			建築概論 B	2	建築法規Ⅱ	2	建築形態論	2					
			建築計画 B	2	建築設備・実験Ⅱ	2	環境計画 a	2					
		計画原論 B	2	建築材料学・実験Ⅱ	2	環境計画 b	2						
		造形演習	1	構造力学Ⅱ	4	ランドスケープデザイン近代史	2						
		基礎造形	2	構造デザインⅡ	2	庭園史	2						
		＊ 2 ～ 4 年生の範囲内で選択履修(履修学年指定なし)											
		エクスチェンジ・プログラムⅠ		1	コラボレイティブ・プロジェクトⅠ		1						
		エクスチェンジ・プログラムⅡ		2	コラボレイティブ・プロジェクトⅡ		2						
卒業制作									卒業制作	6	6		
自由選択枠			各区分の最低所要単位を満たした上で、文化総合科目、造形総合科目Ⅱ類、学科別科目Ⅱ類(選択必修)、他 大学単位互換科目の中から選択履修(博物館に関する科目を12単位まで含めることができる)。								22		
合 計												124	

造形専門科目教育課程表
(1年・2年・3年・4年)

月	2025年4月				5月				6月				7月				8月	
日	1 5	7 12	14 19	21 26	28 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2 7	9 14	16 21	23 28	30 5	7 12	14 19	21 26	28 2
期		1期				2期				3期								
授業週	入学式 4/2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
学 事 予 定	オリエンテーション週間 (4/2～9)	前期授業開始 4/4 科目履修登録 4/4～17										オンラインキャンパス 6/21～22市ヶ谷			オンラインキャンパス 7/12～13鷹の台	前期補講・試験週間 7/16～17 前期授業終了 7/16		後期修正履修登録 8/30～29 夏季休業 7/24～8/30
1 年 (Ⅰ限・Ⅱ限) 2025年度 入学生		造形総合 彫刻Ⅰ				建築設計基礎 [布施・河野・小林・指導補助員]												
	図学 [布施・笠置・入江・指導補助員]																	
	建築設計表現 [布施・伊藤・矢舗・指導補助員]																	
2 年 (Ⅲ限・Ⅳ限) 2024年度 入学生		設計計画Ⅱ-1 [小西・國廣・金田・水上・山家・山村]																
3 年 (Ⅰ限・Ⅱ限) 2023年度 入学生		設計計画Ⅲ-1(高橋スタジオ) [高橋・針谷]																
		設計計画Ⅲ-1(菊地スタジオ) [菊地・三家]																
		設計計画Ⅲ-1(持田スタジオ) [持田・平井]																
		設計計画Ⅲ-1(小松スタジオ) [小松・狩野]																
4 年 (Ⅲ限・Ⅳ限) 2022年度 入学生		設計計画Ⅳ [増田・青木・古澤・川嶋・中川・宮内・高橋・林・田原]																
		卒業制作 [高橋・布施・小西・菊地・持田・國廣・長谷川・小松]																

●オリエンテーション週間 4/2～4/9

9月				10月				11月				12月				2026年1月				2月~3月							
1 6	8 13	15 20	22 27	29 4	6 11	13 18	20 25	27 1	3 8	10 15	17 22	24 29	1 6	8 13	15 20	22 27	29 3	5 10	12 17	19 24	26 31	2/2 3/31					
4期				5期				6期				7期															
18	19	20	21	22	23	24			25	26	27	28	29	30	31			32	33	34	35						
後期授業開始 9／1								芸術祭活動 10／20～11／1						後期授業終了 12／13		後期補講・試験週間 12／15～20		冬季休業 12／22～1／6		卒業制作・修了制作展 1／15～18（鷹の台キャンパス）		卒業制作・修了制作展 1／30～2／1（市ヶ谷キャンパス）		卒業式 3／13			
造形総合 絵画 I				造形総合I類 選択必修								設計計画I-1 〔菊地・鈴木竜・山田 指導補助員〕				設計計画I-2 〔菊地・鈴木竜・山田 指導補助員〕											
設計計画 II-2 〔高橋・持田・滝川・田宮・星野・山本〕																											
設計計画 III-2(布施スタジオ) 〔布施・青木・三幣〕																											
設計計画 III-2(小西スタジオ) 〔小西・奥野〕																											
設計計画 III-2(國廣スタジオ) 〔国廣・廣瀬〕																											
設計計画 III-2(長谷川スタジオ) 〔長谷川・金香〕																											

科 目	単 位
〈造形総合科目〉 I類必修 造形総合・絵画 I 造形総合・彫刻 I I類選択必修 〈学科別科目〉 I類必修 建築設計基礎 図学 建築設計表現 設計計画Ⅰ-1 設計計画Ⅰ-2	2 2 2 2 2 2 2 2
〈学科別科目〉 I類必修 設計計画Ⅱ-1 設計計画Ⅱ-2	2 2
〈学科別科目〉 I類必修 設計計画Ⅲ-1 設計計画Ⅲ-2	2 2
〈学科別科目〉 I類必修 設計計画Ⅳ 卒業制作	2 6

● 祭典 10/24～10/26

専門科目時間割表

			月	火	水	木	金	土				
1 年	Ⅰ 限・Ⅱ 限	1～4 週	造形総合・彫刻 Ⅰ									
		5～8 週	建築設計基礎		図学		建築設計表現					
		9～12 週										
		17～20 週	造形総合・絵画 Ⅰ									
		21～23 週	造形総合・デザイン Ⅱ									
		24～26 週	設計計画 Ⅰ —1									
		27～29 週	設計計画 Ⅰ —2									
	Ⅲ 限	前期										
		後期										
	Ⅳ 限	前期										
		後期		基礎数学								
	Ⅴ 限	前期						構造力学基礎				
		後期						構造デザイン Ⅰ				
2 年	Ⅰ 限	前期										
		後期		建築材料学・実験 Ⅱ								
	Ⅱ 限	前期										
		後期										
	Ⅲ 限	前期	建築計画 A		造形演習	設計計画 Ⅱ-1		建築構法				
		後期	建築計画 B	計画原論 B	写真表現	設計計画 Ⅱ-2		構造力学 Ⅰ				
	Ⅳ 限	前期	建築材料学・実験 Ⅰ	計画原論 A	造形演習	設計計画 Ⅱ-1						
		後期			写真表現	設計計画 Ⅱ-2		構造力学 Ⅰ				
	Ⅴ 限	前期										
		後期										

			月	火	水	木	金	土
3 年	I 限	前期	建築施工 I		都市デザイン A	設計計画 III —1		
		後期	建築施工 II		都市デザイン B	設計計画 III —2		構造力学 II
	II 限	前期	建築概論 A	建築設備・実験 I	建築意匠 B	設計計画 III —1		構造デザイン II
		後期	建築概論 B	建築意匠 A	建築計画 C	設計計画 III —2		構造力学 II
	III 限	前期						
		後期				基礎造形		
	IV 限	前期				ランドスケープ デザイン概論		建築法規 I
		後期				環境計画 b		建築法規 II
	V 限	前期						
		後期						
4 年	I 限	前期						
		後期						
	II 限	前期						
		後期						
	III 限	前期		ランドスケープ デザイン近代史		設計計画 IV		建築設備・実験 II
		後期				スタジオ	スタジオ	
	IV 限	前期				設計計画 IV		
		後期		庭園史		スタジオ	スタジオ	
	V 限	前期						
		後期						

※卒業制作（研究および設計）はスタジオ形式で行ない、時間割は各担当教授により決定するものとする。

※環境計画 a: 建築形態論：応用数学：2024 年度は未開講。